

「敦賀発電所発電用原子炉設置変更許可申請書  
(2号発電用原子炉施設の変更)添付書類の一部補正」及び  
「敦賀発電所2号炉 敷地の地形,地質・地質構造  
敷地内のD-1トレンチ内に認められるK断層の活動性」  
(審査資料)の誤記について

令和6年3月22日  
日本原子力発電株式会社

# 目次

1. はじめに	3
2. 補正書の誤記について	5
3. 審査資料の誤記について	9

## 1. はじめに

本資料は令和5年8月31日に提出した「敦賀発電所発電用原子炉設置変更許可申請書(2号発電用原子炉施設の変更)添付書類の一部補正」(以下、「補正書」)及びそれ以降に提出した「敦賀発電所2号炉 敷地の地形, 地質・地質構造 敷地内のD-1トレンチ内に認められるK断層の活動性」(以下、「審査資料」)について, 誤記を確認したため, その修正内容を取りまとめたものである。

誤記等の一覧表では, 変更・副次的変更・修正・再評価・追加・削除(以下,「変更等」)の分類※を合わせて示す。

### ※ 分類の定義

- 変更 : 従前提示していたデータから再観察により取得したデータに変えること。
- 副次的変更 : 関連データの変更等に伴い, 従前提示していたデータが変わること。
- 修正 : 誤記, 転記等の間違いを正すこと。
- 再評価 : 副次的変更のうち連続性評価(破碎帯分布の検討)を再度実施した結果に変わる箇所については再評価と分類する。
- 追加 : 説明資料を追加すること。
- 削除 : 説明資料を削除すること。

なお, これらの誤記については, 審査会合に用いる審査資料では修正済である。

余白

## 2. 補正書の誤記について

補正書について、以下の一覧表記載の誤記を確認した<sup>※1</sup>ため、正誤比較表を次頁以降に示す。

### 補正書の誤記一覧表

No.	補正書頁	誤	正	誤記の理由	分類	頁
1	補正書 6-7-107頁 (※2)	試料採取位置の記載の誤り	試料採取位置の記載の修正	資料作成時の記載の誤り	修正	6
2		試料採取位置図の誤り	試料採取位置図の修正	資料作成時の記載の誤り	修正	6
3	補正書 6-7-136頁 (※3)	f-d1-1-1-1破碎帯の 記載なし	f-d1-1-1-1破碎帯の 記載あり	資料作成時の表示漏れ	修正	7

※1 令和5年11月10日審査会合、資料1-2『「敦賀発電所発電用原子炉設置変更許可申請書(2号発電用原子炉施設の変更)添付書類の一部補正」の誤記について』で提示した内容からの追加

※2 以下の資料についても同じ内容の誤記有り(ヒアリング・面談資料については省略)

- ・令和5年11月10日審査資料 資料1-1 1-70頁
- ・令和5年12月8日審査資料 資料2-2 1-70頁
- ・令和5年12月14,15日現地調査資料 資料1 1-70頁
- ・令和6年2月9日審査資料 資料3-1 1-70頁

※3 以下の資料についても同じ内容の誤記有り(ヒアリング・面談資料については省略)

- ・令和5年11月10日審査資料 資料1-1 2-10頁
- ・令和5年12月8日審査資料 資料2-2 2-10頁
- ・令和5年12月14,15日現地調査資料 資料1 2-8頁
- ・令和6年2月9日審査資料 資料3-1 2-8頁

# No.1, No.2 正誤比較資料(1/1)

## K-Ar年代測定 試料採取位置の記載誤り(No.1), 試料採取位置図の誤り(No.2)

誤

正

令和5年8月31日提出  
 敦賀発電所発電用原子炉設置変更許可申請書  
 (2号発電用原子炉施設の変更)  
 添付書類の一部補正  
 6-7-107頁 第7.4.4.12図(1)K-Ar年代測定(測定位置及び測定結果)

No.1  
 試料採取位置の記載誤り

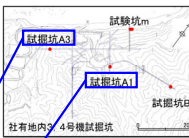
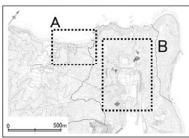
補正書に追記(青枠)

No.1  
 試料採取位置の記載修正

・熱水変質作用によって生成された江若花崗岩中や破砕帯に見られる粘土細脈に含まれる粘土鉱物のカリウム・アルゴン法年代測定値は約51.0～58.1Maであり、熱水変質作用の影響により江若花崗岩の形成年代(約64.2～66.6Ma)よりも若干若い年代を示している。  
 ・ドレライト中の粘土細脈に含まれる粘土鉱物のカリウム・アルゴン法年代測定値は約18.9Maであり、熱水変質作用の影響によりドレライトの形成年代(約21.1Ma)よりも若干若い年代を示している。

・熱水変質作用によって生成された江若花崗岩中や破砕帯に見られる粘土細脈に含まれる粘土鉱物のカリウム・アルゴン法年代測定値は約51.0～58.1Maであり、熱水変質作用の影響により江若花崗岩の形成年代(約64.2～66.6Ma)よりも若干若い年代を示している。  
 ・ドレライト中の粘土細脈に含まれる粘土鉱物のカリウム・アルゴン法年代測定値は約18.9Maであり、熱水変質作用の影響によりドレライトの形成年代(約21.1Ma)よりも若干若い年代を示している。

試料採取位置		測定物	カリウム含有量 (wt.%)	放射性起源 <sup>40</sup> Ar (10 <sup>-6</sup> cc STP/g)	K-Ar年代 (Ma)	非放射性起源 <sup>40</sup> Ar (%)	
江若花崗岩中	黒雲母花崗岩 社有地内3.4号機試験坑A1 65m付近	カリ長石	10.5 10.4	277 274	66.6±3.3 <sup>※3</sup>	8.6 10.9	
	花崗斑岩 社有地内3.4号機試験坑A2 337m付近	カリ長石	10.0 10.0	265 260	66.3±3.3 <sup>※3</sup>	9.6 11.0	
	アブライト 社有地内3.4号機試験坑B1 260m付近	カリ長石	8.45 8.44	218 211	64.2±3.2 <sup>※3</sup>	14.2 14.9	
	D-1破砕帯 D-1トレンチ北側ピット	Mca, Sme他 <sup>※1</sup>	1.571±0.031	333.3±5.0	53.9±1.3	29.5	
	ふげん道路ピット	Sme他 <sup>※1</sup>	0.514±0.010	116.4±1.8	57.4±1.4	30.8	
	H-3a破砕帯 2号炉原子炉建屋南側道路剥ぎ取り部	Sme他 <sup>※1</sup>	0.458±0.009	104.9±1.3	58.1±1.4	20.4	
	変質部	H24-D1-1 59.00～59.10m	Sme他 <sup>※1</sup>	2.476±0.050	497.4±5.7	51.0±1.2	13.5
		H27-B-2 31.65～31.82m	Sme <sup>※1</sup>	1.852±0.037	390.4±6.2	53.5±1.6	32.8
		ドレライト 社有地内3.4号機試験坑C 15m付近	全岩	0.51 0.51	41 43	21.1±1.1 <sup>※3</sup>	49.0 54.6
	F-25破砕帯 社有地内3.4号機試験坑D 18m付近	Sme他 <sup>※2</sup>	0.39 0.38	29 28	16.9±2.3 <sup>※3</sup>	75.1 79.6	

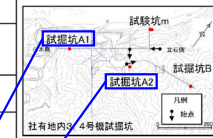
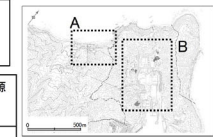


第7.4.4.12図(1) K-Ar年代測定(測定位置及び測定結果)

6-7-107

※1 粘土鉱物を対象とした分析については沈降法・遠心分離の前処理をして、2μm以下にした粒子を測定した。  
 ※2 篩を用いて50～100μmの粒子を選定し、測定した。  
 ※3 それぞれの試料を分割して測定を行い、平均した値を年代値とした。

試料採取位置		測定物	カリウム含有量 (wt.%)	放射性起源 <sup>40</sup> Ar (10 <sup>-6</sup> cc STP/g)	K-Ar年代 (Ma)	非放射性起源 <sup>40</sup> Ar (%)	
江若花崗岩中	黒雲母花崗岩 社有地内3.4号機試験坑A1 立石側切羽より337m付近	カリ長石	10.5 10.4	277 274	66.6±3.3 <sup>※3</sup>	8.6 10.9	
	花崗斑岩 社有地内3.4号機試験坑A2 A1坑との交差点より85m付近	カリ長石	10.0 10.0	265 260	66.3±3.3 <sup>※3</sup>	9.6 11.0	
	アブライト 社有地内3.4号機試験坑B1 坑口より260m付近	カリ長石	8.45 8.44	218 211	64.2±3.2 <sup>※3</sup>	14.2 14.9	
	D-1破砕帯 D-1トレンチ北側ピット	Mca, Sme他 <sup>※1</sup>	1.571±0.031	333.3±5.0	53.9±1.3	29.5	
	ふげん道路ピット	Sme他 <sup>※1</sup>	0.514±0.010	116.4±1.8	57.4±1.4	30.8	
	H-3a破砕帯 2号炉原子炉建屋南側道路剥ぎ取り部	Sme他 <sup>※1</sup>	0.458±0.009	104.9±1.3	58.1±1.4	20.4	
	変質部	H24-D1-1 深度59.00～59.10m	Sme他 <sup>※1</sup>	2.476±0.050	497.4±5.7	51.0±1.2	13.5
		H27-B-2 深度31.65～31.82m	Sme <sup>※1</sup>	1.852±0.037	390.4±6.2	53.5±1.6	32.8
		ドレライト 社有地内3.4号機試験坑C 坑口より15m付近	全岩	0.51 0.51	41 43	21.1±1.1 <sup>※3</sup>	49.0 54.6
	F-25破砕帯 社有地内3.4号機試験坑D 坑口より18m付近	Sme他 <sup>※2</sup>	0.39 0.38	29 28	16.9±2.3 <sup>※3</sup>	75.1 79.6	



※1 粘土鉱物を対象とした分析については沈降法・遠心分離の前処理をして、2μm以下にした粒子を測定した。  
 ※2 篩を用いて50～100μmの粒子を選定し、測定した。  
 ※3 それぞれの試料を分割して測定を行い、平均した値を年代値とした。

No.2  
 試料採取位置図の誤り

No.2  
 試料採取位置図の修正

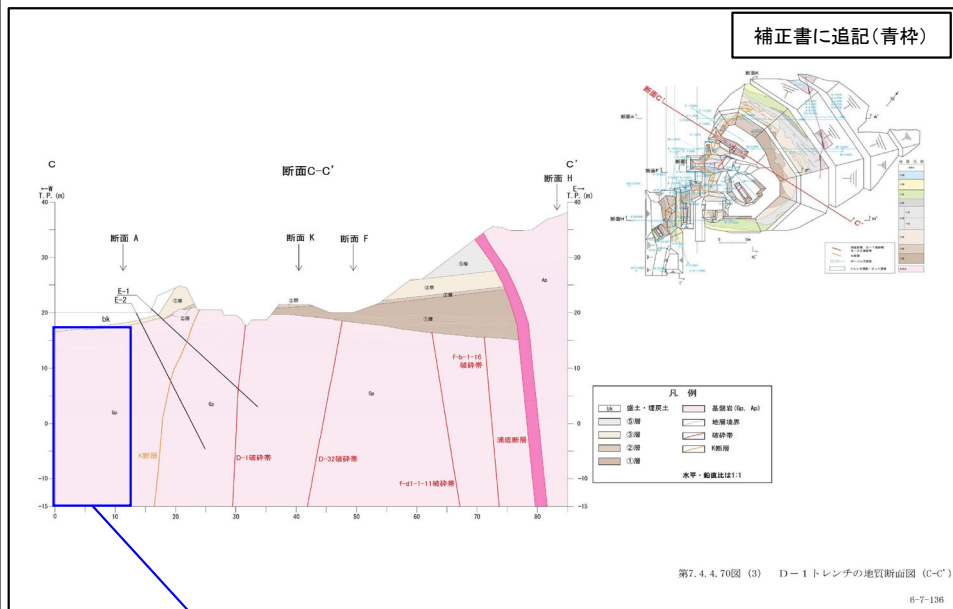
# No.3 正誤比較資料(1/1)

## 断面図上の破碎帯の表示漏れ

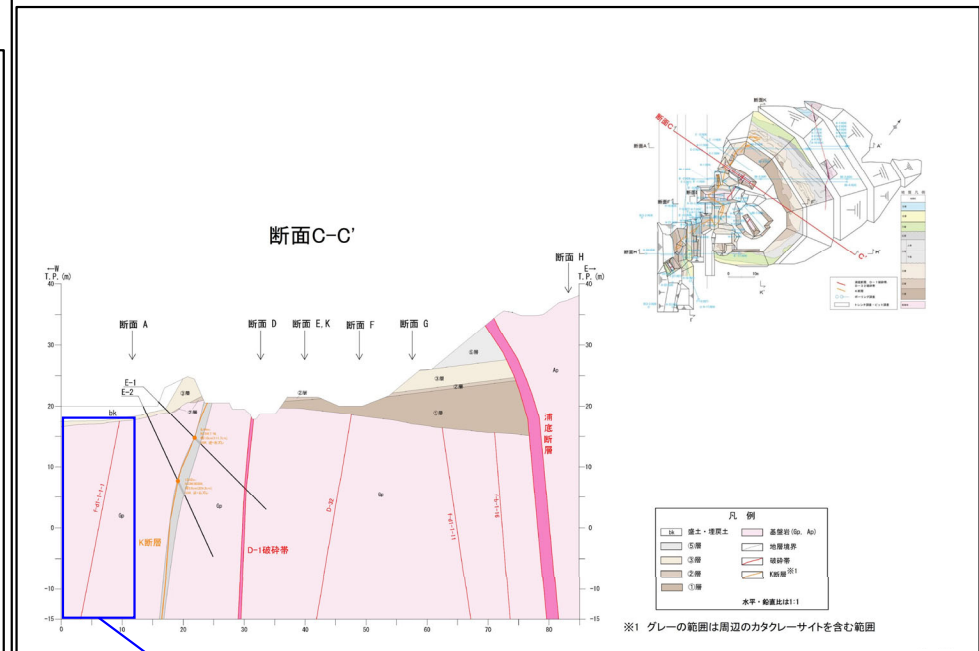
誤

正

令和5年8月31日提出  
 敦賀発電所発電用原子炉設置変更許可申請書  
 (2号発電用原子炉施設の変更)  
 添付書類の一部補正  
 6-7-136頁 第7.4.4.70図(3)D-1トレンチの地質断面図(C-C'断面)



No.3  
 f-d1-1-1-1 破碎帯の記載なし



No.3  
 f-d1-1-1-1 破碎帯の記載あり

余白



### 3. 審査資料の誤記について

審査資料について、以下の一覧表記載の誤記を確認したため、修正前後比較表を次頁以降に示す。

審査資料の誤記一覧表

No.	審査資料頁	修正前	修正後	誤記の理由	分類	頁
4	令和6年2月9日 審査資料 資料3-1 2-95頁 (※1)	誤った「断層ガウジ」の記載	正しい「粘土」または「シルト」 の記載	資料作成時の記載の誤り	修正	10
5	令和5年10月6日 提出資料 2-33頁	誤った「※」の記載	正しい「注)2」の記載	資料作成時の記載の誤り	修正	11
6	令和5年10月6日 提出資料 2-43頁	誤った「※」の記載	正しい「注)2」の記載	資料作成時の記載の誤り	修正	12
7	令和6年2月9日 審査資料 資料3-1 1-70頁 (※2)	試料採取位置の記載の誤り	試料採取位置の記載の修正	資料作成時の記載の誤り	修正	-
8		試料採取位置図の誤り	試料採取位置図の修正	資料作成時の記載の誤り	修正	-
9	令和6年2月9日 審査資料 資料3-1 2-8頁 (※3)	f-d1-1-1-1破砕帯の 記載なし	f-d1-1-1-1破砕帯の 記載あり	資料作成時の表示漏れ	修正	-

※1 以下の資料についても同じ内容の誤記有り(ヒアリング・面談資料については省略)

・令和5年12月14,15日現地調査資料 資料1 2-95頁

※2 以下の資料についても同じ内容の誤記有り(ヒアリング・面談資料については省略)(修正前後比較表については「2. 補正書の誤記について」で提示済みのため省略)

・補正書 6-7-107頁

・令和5年11月10日審査資料 資料1-1 1-70頁

・令和5年12月8日審査資料 資料2-2 1-70頁

・令和5年12月14,15日現地調査資料 資料1 1-70頁

※3 以下の資料についても同じ内容の誤記有り(ヒアリング・面談資料については省略)(修正前後比較表については「2. 補正書の誤記について」で提示済みのため省略)

・補正書 6-7-136頁

・令和5年11月10日審査資料 資料1-1 2-10頁

・令和5年12月8日審査資料 資料2-2 2-10頁

・令和5年12月14,15日現地調査資料 資料1 2-8頁

# No.4 前後比較資料(1/1)

## 法面スケッチにおける走向傾斜測定ポイントの性状記載誤り

修正前

修正後

令和6年2月9日  
 敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造  
 敷地内のD-1トレンチ内に認められるK断層の活動性  
 資料3-1(令和5年12月14, 15日現地調査 資料1) 2-95頁

2.2.9 その他観察面(D-1トレンチ北法面上 スケッチ)

審査資料に追記(青枠)



・法面観察は東側の花崗岩類と西側の堆積物とを境している。  
 ・法面観察には2本の断層ガウジが認められ、東側の断層ガウジがより傾斜がゆるい。両断層とも、断面傾斜が約30°程度である。  
 ・断層観察の観察距離は40～120m程度である。

① f: N29° W70° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.5～3cm)  
 ② f: N28° W57° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.5～2cm)  
 ③ f: N51° W40° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.4～1.8cm)  
 ④ f: N27° W65° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.8～2cm)  
 ⑤ f: N25° W56° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.5～2cm)  
 ⑥ f: N39° W64° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.5～1.8cm)  
 ⑦ f: N25° W63° E 断層ガウジ(淡黄色粘土:幅0.1cm)  
 ⑧ f: N27° W26° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.1～0.3cm)  
 ⑨ f: N43° W58° E 断層ガウジ(淡黄色砂質シルト:幅0.2cm)  
 ⑩ j: N3° E30° E 暗褐色粘土(幅0.2～1cm) 挟む  
 ⑪ j: N65° E78° S  
 ⑫ j: N33° E26° E 暗褐色粘土(幅0.1～0.5cm) 挟む

(対象箇所拡大)

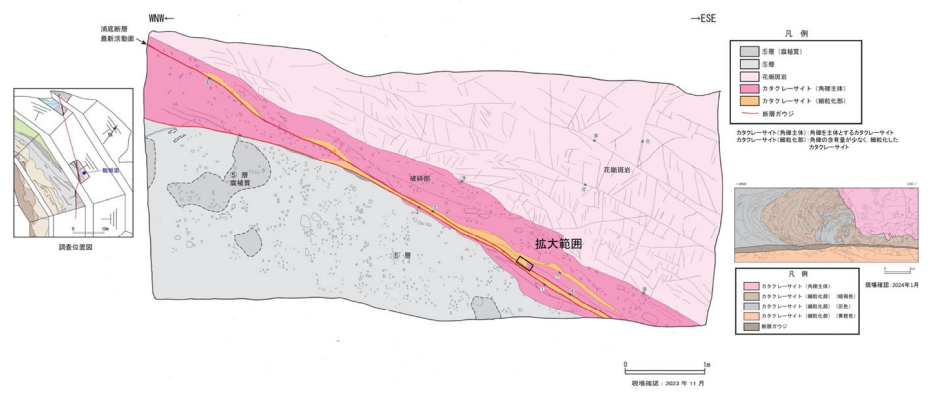
- ① f: N29° W70° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.5～3cm)
- ② f: N28° W57° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.5～2cm)
- ③ f: N51° W40° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.4～1.8cm)
- ④ f: N27° W65° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.8～2cm)
- ⑤ f: N25° W56° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.5～2cm)
- ⑥ f: N39° W64° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.5～1.8cm)
- ⑦ f: N25° W63° E 断層ガウジ(淡黄色粘土:幅0.1cm)
- ⑧ f: N27° W26° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.1～0.3cm)
- ⑨ f: N43° W58° E 断層ガウジ(淡黄色砂質シルト:幅0.2cm)
- ⑩ j: N3° E30° E 暗褐色粘土(幅0.2～1cm) 挟む
- ⑪ j: N65° E78° S
- ⑫ j: N33° E26° E 暗褐色粘土(幅0.1～0.5cm) 挟む

※走向は偏角補正済み

No.4  
 誤った(断層ガウジの)記載

その他観察面(D-1トレンチ北法面上 スケッチ)

第1225回審査会合  
 資料3-1 修正



・法面観察は東側の花崗岩類と西側の堆積物とを境している。  
 ・法面観察には2本の断層ガウジが認められ、東側の断層ガウジがより傾斜がゆるい。両断層とも、断面傾斜が約30°程度である。  
 ・断層観察の観察距離は40～120m程度である。

① f: N29° W70° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.5～3cm)  
 ② f: N28° W57° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.5～2cm)  
 ③ f: N51° W40° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.4～1.8cm)  
 ④ f: N27° W65° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.8～2cm)  
 ⑤ f: N25° W56° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.5～2cm)  
 ⑥ f: N39° W64° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.5～1.8cm)  
 ⑦ f: N25° W63° E 断層ガウジ(淡黄色粘土:幅0.1cm) 挟む  
 ⑧ f: N27° W26° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.1～0.3cm) 挟む  
 ⑨ f: N43° W58° E 断層ガウジ(淡黄色砂質シルト:幅0.2cm) 挟む  
 ⑩ j: N3° E30° E 暗褐色粘土(幅0.2～1cm) 挟む  
 ⑪ j: N65° E78° S  
 ⑫ j: N33° E26° E 暗褐色粘土(幅0.1～0.5cm) 挟む

(対象箇所拡大)

- ① f: N29° W70° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.5～3cm)
- ② f: N28° W57° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.5～2cm)
- ③ f: N51° W40° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.4～1.8cm)
- ④ f: N27° W65° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.8～2cm)
- ⑤ f: N25° W56° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.5～2cm)
- ⑥ f: N39° W64° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.5～1.8cm)
- ⑦ f: N25° W63° E 断層ガウジ(淡黄色粘土:幅0.1cm) 挟む
- ⑧ f: N27° W26° E 断層ガウジ(暗褐色粘土:幅0.1～0.3cm) 挟む
- ⑨ f: N43° W58° E 断層ガウジ(淡黄色砂質シルト:幅0.2cm) 挟む
- ⑩ j: N3° E30° E 暗褐色粘土(幅0.2～1cm) 挟む
- ⑪ j: N65° E78° S
- ⑫ j: N33° E26° E 暗褐色粘土(幅0.1～0.5cm) 挟む

※走向は偏角補正済み

No.4  
 正しい(粘土またはシルトの)記載

# No.5 前後比較資料(1/1)

## H31-R-2' 孔の連続性評価結果の記載誤り

修正前

修正後

令和5年10月6日  
 敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造  
 K断層と原子炉建屋直下を通過する破砕帯との連続性 2-33頁

提出資料に追記(青枠)

2.2.1 敷地の破砕帯の連続性評価基準に基づく検討範囲にはない破砕帯との連続性確認  
 K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破砕帯との連続性の確認  
 H31-R-2' 孔の破砕帯の性状及び連続性評価結果

・ H31-R-2' 孔で確認された全ての破砕帯は、K断層の性状とは類似していないことから、K断層と連続しないことを確認した。

連続性評価結果

起点	対比する ボーリング孔	連続性 検討範囲	断面図上 の番号	破砕帯範囲		走向	比較対象との 走向の差 (°)	傾斜	比較対象との 傾斜の差 (°)	性状			連続性 検討結果	破砕帯名	連続性検討結果 に関する備考	
				上端深度 (m)	下端深度 (m)					崩壊カワシ ・ 崩壊線の 有無	明確な せん断構造・ 変形構造 の有無	条線				方位センサス N : 正断層 RL : 右構ずれ R : 逆断層 LL : 左構ずれ
ふがん涌出ピット	-	-	-	EL+14.8m		NSW	67W			有	有	※	R	K断層		
-	H31-R-2'	-	①	9.92	11.01	N12E	69W	2		有	無	50R	N,LL	×	F+2'-1	
			②	27.43	27.48	N2E	7	57W	10		有	無	70R	N	×	
			③	39.00	39.83	N13E	18	77W	10		無	-	30R	R,LL	×	H-2

注)1 最新活動以前に形成された破砕帯の性状等について起点破砕帯と対象破砕帯の性状が類似しているかを確認する。  
 注)2 ふがん涌出ピットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。  
 ※、データ未取得していない箇所

**緑色** 起点の破砕帯の性状・傾斜が4.20°程度の範囲内のもの  
**黄色** 起点の破砕帯の性状・傾斜が4.20°程度の範囲内に分厚し、  
 比較対象の性状・傾斜が4.20°程度の範囲内に分厚し、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内の場合があるもの  
**青色** 起点の破砕帯の性状・傾斜が4.20°程度の範囲内に分厚し、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕帯の性状のうち崩壊カワシ・崩壊線の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの  
**水色** 起点の破砕帯の性状・傾斜が4.20°程度の範囲内に分厚し、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕帯の性状のうち崩壊カワシ・崩壊線の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの  
**赤色** 起点の破砕帯の性状・傾斜が4.20°程度の範囲内に分厚し、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕帯の性状のうち崩壊カワシ・崩壊線の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの  
**茶色** 起点の破砕帯の性状・傾斜が4.20°程度の範囲内に分厚し、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕帯の性状のうち崩壊カワシ・崩壊線の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの  
**黒色** 最新活動で形成された破砕帯の性状(崩壊カワシ・崩壊線の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線)が一致し、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内で、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕帯の性状のうち崩壊カワシ・崩壊線の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの  
**グレー** 最新活動で形成された破砕帯の性状(崩壊カワシ・崩壊線の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線)が一致し、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内で、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕帯の性状のうち崩壊カワシ・崩壊線の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの  
 起点破砕帯から走向・傾斜が±20°の範囲外の破砕帯について検討を実施するため、上記範囲内の条件は適用しない。

No.5  
 誤った「※」の記載

3.2.1 敷地の破砕帯の連続性評価基準に基づく検討範囲にはない破砕帯との連続性確認  
 K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破砕帯との連続性の確認  
 H31-R-2' 孔の破砕帯の性状及び連続性評価結果

令和5年10月6日提出資料 修正

・ H31-R-2' 孔で確認された全ての破砕帯は、K断層の性状とは類似していないことから、K断層と連続しないことを確認した。

連続性評価結果

起点	対比する ボーリング孔	連続性 検討範囲	断面図上 の番号	破砕帯範囲		走向	比較対象との 走向の差 (°)	傾斜	比較対象との 傾斜の差 (°)	最新活動で形成された破砕帯の性状			最新活動以前に 形成された 破砕帯の性状等 注)1	連続性 検討結果	破砕帯名	
				上端深度 (m)	下端深度 (m)					崩壊カワシ ・ 崩壊線の 有無	明確な せん断構造・ 変形構造 の有無	条線				方位センサス N : 正断層 RL : 右構ずれ R : 逆断層 LL : 左構ずれ
ふがん涌出ピット	-	-	-	EL+14.8m		NSW	67W			注)2	注)2	注)2	R	K断層		
-	H31-R-2'	-	①	9.92	11.01	N12E	17	69W	2		有	無	30R	R,LL	×	F+2'-1
			②	27.43	27.48	N2E	7	57W	10		有	無	70R	N	×	
			③	39.00	39.83	N13E	18	77W	10		無	-	30R	R,LL	×	H-2

注)1 最新活動以前に形成された破砕帯の性状等について起点破砕帯と対象破砕帯の性状が類似しているかを確認する。  
 注)2 ふがん涌出ピットにおいて、崩壊カワシ・崩壊線の有無、明確なせん断構造・変形構造の有無及び条線は取得できていないため、K断層の性状である以下を用いる。  
**崩壊カワシ・崩壊線の有無** 有 明確なせん断構造・変形構造の有無 有 条線 高角度条線(67.5L~67.5R)  
 ※、データ未取得していない箇所

**緑色** 起点の破砕帯の性状・傾斜が4.20°程度の範囲内のもの  
**黄色** 起点の破砕帯の性状・傾斜が4.20°程度の範囲内に分厚し、  
 比較対象の性状・傾斜が4.20°程度の範囲内に分厚し、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内の場合があるもの  
**青色** 起点の破砕帯の性状・傾斜が4.20°程度の範囲内に分厚し、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕帯の性状のうち崩壊カワシ・崩壊線の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの  
**水色** 起点の破砕帯の性状・傾斜が4.20°程度の範囲内に分厚し、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕帯の性状のうち崩壊カワシ・崩壊線の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの  
**赤色** 起点の破砕帯の性状・傾斜が4.20°程度の範囲内に分厚し、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕帯の性状のうち崩壊カワシ・崩壊線の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの  
**茶色** 起点の破砕帯の性状・傾斜が4.20°程度の範囲内に分厚し、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕帯の性状のうち崩壊カワシ・崩壊線の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの  
**黒色** 最新活動で形成された破砕帯の性状(崩壊カワシ・崩壊線の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線)が一致し、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内で、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕帯の性状のうち崩壊カワシ・崩壊線の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの  
**グレー** 最新活動で形成された破砕帯の性状(崩壊カワシ・崩壊線の有無、せん断構造・変形構造の有無、条線)が一致し、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内で、かつ、両者の走向・傾斜の差が4.20°程度以内で、かつ、最新活動で形成された破砕帯の性状のうち崩壊カワシ・崩壊線の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの  
 起点破砕帯から走向・傾斜が±20°の範囲外の破砕帯について検討を実施するため、上記範囲内の条件は適用しない。

No.5  
 正しい「注)2」の記載

# No.6 前後比較資料(1/1)

## H31-R-1孔の連続性評価結果の記載誤り

修正前

修正後

令和5年10月6日  
 敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造  
 K断層と原子炉建屋直下を通過する破砕帯との連続性 2-43頁

提出資料に追記(青枠)

2.2.1 敷地の破砕帯の連続性評価基準に基づく検討範囲にはない破砕帯との連続性確認  
 K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破砕帯との連続性の確認  
 H31-R-1孔の破砕帯の性状及び連続性評価結果

- H31-R-1孔で確認された全ての破砕帯は、K断層の性状とは類似していないことから、K断層と連続しないことを確認した。
- K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破砕帯において、K断層の性状と類似する破砕帯はなかったことから、K断層はこれらの南方にあるボーリング調査の範囲には連続しないことを確認した。

連続性評価結果

起点	対比するボーリング孔	連続性	断面図上の番号	破砕帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	性状			連続性	破砕帯名	連続性検討結果に関する備考					
				上端深度	下端深度					方位	傾斜	位置センサ								
				(m)	(m)															
ふがえ川遺跡ビット	H31-R-1	-	-	EL+14.6m		NSW	7	67W	16	有	有	※	R	K断層						
				①	24.50					24.67	N2E	7	S1W	16	有	無	5L	LL	x	F-r-1-1
				②	38.69					38.72	N18E	23	36W	31	無	無	63L	N,RL	x	F-r-1-2
				③	42.24					42.31	N45E	50	83SE	30	無	無	73R	N	x	F-r-1-3
				④	42.68					42.80	N28W	23	10W	57	無	無	73R	R	x	F-r-1-4
				⑤	70.94					71.83	N20E	25	88W	21	有	有	79L	N	x	F-r-1-5
				⑥	72.72					73.09	N42E	47	59NW	8	無	無	28L	R,LL	x	
				⑦	73.70					73.83	N16E	21	87W	20	無	無	74R	N	x	F-r-1-7
				⑧	74.57					74.68	N19E	24	75E	38	無	無	12R	RL	x	
				⑨	84.89					85.12	N35E	40	28NW	39	無	無	40R	R,RL	x	
				⑩	86.18					86.23	N2W	3	66E	47	無	無	20R	RL	x	
				⑪	88.30					88.40	N19W	14	80E	33	無	無	64R	R,RL	x	
				⑫	97.76					97.78	N23W	16	75W	8	有	無	28R	N,LL	x	H-4
				⑬	124.30					124.42	N22W	17	85W	16	有	無	46L	N,RL	x	H-5

注1 最新活動以前に形成された破砕帯の性状等について起点破砕帯と対象破砕帯の性状が類似しているかを確認する。  
 注2 ふがえ川遺跡ビットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。  
 ※取得していない箇所

注1 最新活動以前に形成された破砕帯の性状のうち方位カワシ、前後傾斜の有無及び人形構造、変形構造の有無が一致するもの  
 注2 ふがえ川遺跡ビットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。  
 ※取得していない箇所

注1 最新活動以前に形成された破砕帯の性状のうち方位カワシ、前後傾斜の有無及び人形構造、変形構造の有無が一致するもの  
 注2 ふがえ川遺跡ビットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。  
 ※取得していない箇所

注1 最新活動以前に形成された破砕帯の性状のうち方位カワシ、前後傾斜の有無及び人形構造、変形構造の有無が一致するもの  
 注2 ふがえ川遺跡ビットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。  
 ※取得していない箇所

No.5  
 誤った「※」の記載

3.2.1 敷地の破砕帯の連続性評価基準に基づく検討範囲にはない破砕帯との連続性確認  
 K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破砕帯との連続性の確認  
 H31-R-1孔の破砕帯の性状及び連続性評価結果

令和5年10月6日提出資料 修正

- H31-R-1孔で確認された全ての破砕帯は、K断層の性状とは類似していないことから、K断層と連続しないことを確認した。
- K断層とH24-D1-1孔から重要施設までの間で実施したボーリング孔の全ての破砕帯において、K断層の性状と類似する破砕帯はなかったことから、K断層はこれらの南方にあるボーリング調査の範囲には連続しないことを確認した。

連続性評価結果

起点	対比するボーリング孔	連続性	断面図上の番号	破砕帯範囲		走向	比較対象との走向の差(°)	傾斜	比較対象との傾斜の差(°)	最新活動で形成された破砕帯の性状			最新活動以前に形成された破砕帯の性状(注1)	連続性	破砕帯名					
				上端深度	下端深度					方位	傾斜	位置センサ								
				(m)	(m)															
ふがえ川遺跡ビット	H31-R-1	-	-	EL+14.6m		NSW	7	67W	16	有	有	※	R	K断層						
				①	24.50					24.67	N2E	7	S1W	16	有	有	5L	LL	x	F-r-1-1
				②	38.69					38.72	N18E	23	36W	31	無	無	63L	N,RL	x	F-r-1-2
				③	42.24					42.31	N45E	50	83SE	30	無	無	73R	N	x	F-r-1-3
				④	42.68					42.80	N28W	23	10W	57	無	無	73R	R	x	F-r-1-4
				⑤	70.94					71.83	N20E	25	88W	21	有	有	79L	N	x	F-r-1-5
				⑥	72.72					73.09	N42E	47	59NW	8	無	無	28L	R,LL	x	
				⑦	73.70					73.83	N16E	21	87W	20	無	無	74R	N	x	F-r-1-7
				⑧	74.57					74.68	N19E	24	75E	38	無	無	12R	RL	x	
				⑨	84.89					85.12	N35E	40	28NW	39	無	無	40R	R,RL	x	
				⑩	86.18					86.23	N2W	3	66E	47	無	無	20R	RL	x	
				⑪	88.30					88.40	N19W	14	80E	33	無	無	64R	R,RL	x	
				⑫	97.76					97.78	N23W	16	75W	8	有	無	28R	N,LL	x	H-4
				⑬	124.30					124.42	N22W	17	85W	16	有	無	46L	N,RL	x	H-5

注1 最新活動以前に形成された破砕帯の性状等について起点破砕帯と対象破砕帯の性状が類似しているかを確認する。  
 注2 ふがえ川遺跡ビットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。  
 ※取得していない箇所

注1 最新活動以前に形成された破砕帯の性状のうち方位カワシ、前後傾斜の有無及び人形構造、変形構造の有無が一致するもの  
 注2 ふがえ川遺跡ビットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。  
 ※取得していない箇所

注1 最新活動以前に形成された破砕帯の性状のうち方位カワシ、前後傾斜の有無及び人形構造、変形構造の有無が一致するもの  
 注2 ふがえ川遺跡ビットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。  
 ※取得していない箇所

注1 最新活動以前に形成された破砕帯の性状のうち方位カワシ、前後傾斜の有無及び人形構造、変形構造の有無が一致するもの  
 注2 ふがえ川遺跡ビットにおいて、条線は取得できていないため、K断層の性状である高角度条線(67.5L~67.5R)を用いる。  
 ※取得していない箇所

No.5  
 正しい「注2」の記載